

環境滋賀 私の見解評論

五色の滝に登って

宮川 琴枝（長浜市）

先日、伊吹山中に五色の滝をたずねた。曲谷ユリ園の一寸手前からその山道は始まった。胸を突くような急な坂道や獣道のような細く険しい道を本当はほんの用心のためにと思い持って行った杖にすがりながら登っていくと、そこには橋のない急流が待ちかまえていた。どうやらこの前の大雨で丸太橋が流されてしまったようである。先導の数人が膝下までずぶぬれになりながらその流れの中の一抱えもある岩をいくつか寄せて飛び石を作ってくださった。やっと思いで向こう岸にたどり着き、しばらく行くと今度はもつと大きな流れに出会う。丸太と岩の急拵えの橋を滑りはしないかとおっかなびびっくりで両側から支えて貰いながらの渡川となる。

総勢50人ほどの全員が渡り終えるまで地元の人たちはずぶぬれになりながら川の中にいて下さった。「ごめんなさい。冷たいでしよう。寒くはないですか」「嫌々平気ですよ。地元ですからすぐに着替えられますよ」でもまだ滝に着いたわけでもなくこのままで大丈夫かしらと心底気にかかると、

途中の流れを手で掬いながら「この水は花崗岩地帯を流れているので本当に美味しい水ですよ」とすすめてくれる人がいた。一口飲んでみると将に甘露甘露。え！伊吹山って石灰岩じゃないんですか」「ほら見てご覧なさい。このあたりの岩は全部花崗岩ですよ。此処はつい先頃まで上質の挽き臼が作られていたところですよ。見ればそこかしこに臼の未完成品が、つず高く積み上げられている。臼谷の由来だ。先人はこんな山奥からこの臼を背負って里まで降ろされていたのだとか。「日本人はお米を食べているから力が出たのですよ。研究者が試しに何人かの人にパン食をさせてみたところ、摂取カロリーは代わらないのに、力が出なかったと言ったことですよ。」成る程成る程と合点する。

此処ではたと気が付いた。今まで沢山の小さな滝を見てきたのに、カメラを手にぶらさげていながら私は殆どなにも写していなかったのだ。

突然、岩盤の上を勢いよく流れ落ちる滝が目飛び込んできた。五色の滝だ！それは想像していた滝とは違い、広く長い幾つかの岩盤の上を滑るように流れ下る清流である。曇ってはいたがそれでも鮮やかな色とりどりの紅葉に映えて美しい！思わず何回も何回も大きく息を吸い込んだ。

今、エコツアーリズムと盛んに言われているが、ここに登山道など出来ません様に。沢山の観光客で自然が踏み荒らされません様に。自然は自然のままにおいて欲しい。こんな願いは私だけの我が儘だろうか。